

## 小鹿野町役場庁舎検討委員会次第

平成 28 年 12 月 15 日（金） 13：30

小鹿野町役場 第 1 会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 議 題

(1) 第 1 回会議の要旨について

(2) 役場庁舎の現状（視察）について

(3) 町の財務状況について

(4) その他

4 閉 会

第1回 小鹿野町役場庁舎検討委員会（要点筆記）			
日 時	平成28年10月28日(金)	開会	午後 1時30分
		閉会	午後 2時40分
会 場	小鹿野庁舎 第1会議室		
出席者	町長 丸山陽生 佐藤恭平 原口悟志 井上要作 石田悦朗 山崎勉		
	吉田恭典 岩崎宏 黒沢裕幸 笠原憲一 柴崎好一 坂本好司 黒田豊二 町田考子 今井清 鷗田静江 柿島佳弘 黒沢一男 (事務局 黒澤総務課長、須藤)		
傍聴者	日本建設新聞記者		

内 容	
発言者	発言の要旨
	(開会のあいさつ)
総務課長	日本建設新聞の方が会議の傍聴をしますのでご了解ください。 この会議を録音しますのでご了解ください。 委員長が決定するまで事務局で進行します。
	(町長より委員に委嘱状を交付)
町長	小鹿野町役場庁舎検討委員会が開催できますことに感謝とお礼を申し上げます。 小鹿野庁舎は平成23年に耐震診断を実施し、IS値が0.6から0.7なくてはいけませんが、0.3しかない。その結果、耐震補強するか、建て替えかいろいろ方法があると思うが、このままでは危険です。 委員会の皆さんに検討していただいて方向性を出していただきたい。皆さんに現在の実情を知ってもらって、忌憚のない意見をお願い申し上げたい。
	(委員による自己紹介)
総務課長	(庁舎検討委員設置条例の説明) 議題(1)の委員長の選任について、委員長・副委員長は互選により選任していただきたい。
黒沢一男委員	委員が欠員になっているが、公募委員が1名だけなので補充してほしい。
総務課長	委員は必ず20名とは規定されていないので止むを得ません。
黒沢一男委員	公募委員が大勢いて関心のある人がいるということは大事なこと。 町の代表である委員の人には、個人的な思いをもっている人もいると思う。そういう人の意見が入った検討委員会であってほしい。 委員長や副委員長を決めるのに、委員の人は何も知らないで判断するのではこの会の運営上不合理だ。
総務課長	公募委員は2名いなければならないということにはなっていません。今、黒沢さんから委員長・副委員長を決めるにはまだ早いという意見がありました。どなたか意見がありますか。委員長を決めなければ、次の会議を開くことはできません。次、委員会を代表する者として必要です。
黒沢一男委員	条例では公募委員は二人となっているが、公募委員は必要ないのか。
総務課長	公募は広報でもお知らせした、その時に欠員が生じたということではない。たまたま一人しか応募がなかった。
岩崎委員	委員を20人そろえる必要はない。公募して呼びかけて応募した人が黒沢さん一人だった。委員は現時点では19人である。
黒沢一男委員	議会で条例を作るときに議会がどんな状況だったか。

発言者	発言の要旨
町長	3月議会に出して撤回した。6月議会で話し合ってもらって認めてもらった。
黒沢一男委員	町長から任命された委員と公募の委員とは違う。住民の中でそういう意見をもっている人がいたら入れてもらいたい。
総務課長	議題である正・副委員長を決めます。どなたか意見がありましたらお願いします。特になければ事務局から推薦させていただきます。
黒沢一男委員	事務局提案で委員長が出るということはその会の運営の仕方として疑問を持つ。
黒田委員	先に進めてください。
総務課長	事務局案として、委員長に区長協議会長、丸山様、副委員長に体育協会会長 笠原様と提案したい。
	(拍手あり、事務局案のとおり決定)
丸山委員	小鹿野町の将来の方針を決定するという重要な委員会なので大変戸惑っているが、地域の代表として全力で全うしたい。委員の皆様のご指導・ご協力をお願いします。
笠原委員	委員長を補佐しこの会が意義のある会で終わるよう頑張りたいのでご指導よろしくお願います。
総務課長	議題(2)の委員会の進め方からは委員長に議長になって進めていただきたい。
丸山委員長	会議の公開についてを議題とします。事務局の説明をお願いします。
総務課長	会議の公開について、会議の傍聴を認めるか、非公開とするかを協議いただきたい。会議録は皆さんの承認を得たのちに一般に公開することを考えているので意見を賜りたい。議題によって非公開が良いというのであれば非公開とすることも検討していただきたい。議会の傍聴の規則もあるのでそれにならって公開したいと考えている。
岩崎委員	課長が言うように、プライバシーのある時は協議して非公開にするか判断する。
丸山委員長	岩崎さんからの意見のように公開することで決定します。総務課長の説明のとおり、原則公開、委員から申し出がある場合には非公開もある。
黒沢一男委員	非公開とするのは、非公開にしなければならない理由を公開しなければいけない。
丸山委員長	充分協議して決定する、先ほどの総務課長の説明のとおり決定したい。 (2)の今後の予定について
総務課長	(今後の予定について 資料に基づき説明) 1か月半に1回の割で開催したい。 第2回は12月中旬に役場庁舎の現状についてが議題。
柿島委員	7月に町長に報告するが、どうに生かされるのか。議会に出して承認を得るのか、上の会に出すのか。
総務課長	ある程度の方向性を出して、町長の判断の材料、選択肢の一つとする。
岩崎委員	第2回目は町の財務状況で数字的なものになるので、時間がないので事前に資料を配布してほしい。
総務課長	会議の資料は事前に配布したい。日程はその後調整したい。
黒沢一男委員	委員に決まった後に気持ちの整理をしておくという必要があったはず。抜け駆けでやるのは事務局の対応がおかしかった。 次の会までに委員がこういう方法がよいという意見をもってきた方がよい。 日当はいらないが一生懸命考えてみたい。この額は検討委員会にはふさわしくない額だ。
山崎委員	黒沢さんは小鹿野町を良くしようすることに、どうしようとお考えなのか聞きたい。委員がたくさん意見を出して考えることが検討委員会だ。委員会がスムーズにいくように協力していくので黒沢さんもよろしくお願したい。
総務課長	委員の日当は委員に対して支払わなければならないのでご了承願いたい。
黒沢一男委員	山崎さんは私より町長に言ってもらいたい。町長は将来をどういう風にやりたいのか、将来のことについて言ってない。将来のことを思ってないでこの場を騒がすためにやるというなら納得がいかない。発言を取り消してもらおうか、皆さんがそういうのならこの会議には出ません。

発言者	発言の要旨
山崎委員	小鹿野町を良くしようとするに、どうしようとお考えなのか聞きたいと言ったのは訂正します。
丸山委員長	この会が皆さんからいろいろな意見が出てそれを集約するような委員会にしたいのでお願いしたい。その他で事務局から用意がありますか。
総務課長	特にありません。皆さんのほうではありますか。
岩崎委員	議事録はどうするんですか
総務課長	今回の議事録を調整して次回の会議で皆さんに見ていただいて内容があつていれば公開する。要旨的な形でまとめるようになる。
丸山委員長	議事録の署名は
黒沢裕幸委員	農協は事務局が読み上げている。
総務課長	次回の会議で読みながら確認していただく。
丸山委員長	次回の会議の時に議事録を作ってもらって皆さんで目を通して確認するということが出来ますか。
	(お願いしますの声あり)
丸山委員長	皆さんの意見も出たようですので、今日の会議は締めさせていただきますが、今日は第1回目ということで皆さんに貴重な意見を出していただきました。次の委員会には資料も用意していただいて進めたいと思います。今日の委員会を閉会といたします。

## 第 2 回

# 小鹿野町役場庁舎検討委員会

## 資 料

## 目 次

1 役場庁舎の現状	1
2 耐震診断結果	2
3 他の計画との整合性	3
小鹿野庁舎 耐震診断概要	4
両神庁舎 耐震診断概要	10
町の財務状況	15

## 1 役場庁舎の現状

小鹿野庁舎は、昭和41年に建設され築50年経過しています。

また、両神庁舎は昭和48年に建設され築43年経過し、両庁舎ともに老朽化が著しくなっています。

### <概要>

	小 鹿 野 庁 舎	両 神 庁 舎
所在地	小鹿野89番地	両神薄2906番地
竣工	昭和41年	昭和48年
経過年数	50年	43年
建築面積	801.12 m <sup>2</sup>	788.95 m <sup>2</sup>
延床面積	1,435.57 m <sup>2</sup>	2,098.14 m <sup>2</sup> (内診断部分 1,648.5m <sup>2</sup> ※1)
階数	地上2階 塔屋1階	地上3階
構造種別	鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造
敷地面積※2	6,068 m <sup>2</sup>	10,466 m <sup>2</sup>
使用状況	1階 町長室、事務室、印刷室 防災無線室、応接室、旧宿直室 放送室、給湯室、書庫(戸籍、 土地台帳、金庫、会計課)	1階 事務室、書庫、応接室、会議室 A、会議室B、旧宿直室、
	2階 議場、正副議長室、議員控室 議会事務局、休憩室、サーバ室 電算室、O A ルーム	2階 中会議室、旧村史編纂室 小会議室、生活改善実習室、 サーバ室、相談室
		3階 大会議室
課及び職員数	1階 総務課、総合政策課、住民課 税務課、会計課 計47名	1階 おもてなし課、建設課 産業振興課 計31名
	2階 議会事務局 2名	
修繕・改築等	平成11年、庁舎1階裏側	平成4年に庁舎1階裏側(現

	壁を約1m外側に設置(既存の壁を撤去)し事務室の拡張工事を実施。	在の産業振興課)部分を増築、また平成15年にエレベータを設置。
--	----------------------------------	---------------------------------

## その他の庁舎

小鹿野文化センター	社会教育課、中央公民館	計11名
町立病院		131名
保健福祉センター	保健課、福祉課	計38名
衛生センター	衛生課	8名
両神ふるさと総合会館	学校教育課、両神公民館、図書館	計14名
水道事務所	水道局小鹿野事務所	5名

※1 両神庁舎は、1階増築部分、エレベーター棟を除く

※2 敷地面積は、駐車場等を含む

## 2 耐震診断結果

平成23年度に耐震診断調査を実施した結果、構造耐震判定指標(Is値)0.75に比べて大幅に下回っていることが判明し、耐震対策と大規模な老朽化対策が必要となりました。

### <耐震診断調査の結果等>

	小鹿野庁舎	両神庁舎
耐震性能(Is値※1)	0.31~2.05	0.60~1.49
問題点	コンクリートの強度が劣化している。 (設計時の強度は20.6N/mm <sup>2</sup> ※2、現在の強度は11.4~15.3N/mm <sup>2</sup> とバラツキがある。)	
所見	コンクリートの強度が低いこと、建物全体の劣化も著しいことから改築も視野に入れた検討が望ましい。	1、2階は補強が必要である。

※1 その建物が現在持っている性能・強度。建物の強度と粘り強さ、形状やバランス、経年劣化の状況等から判断された数値。

※2 コンクリート強度を表す単位で、一定の面積でどれだけの圧力に耐えられるかを示すもの。「N」はニュートンで、重量を意味する。

耐震性能(震度6強~7の大地震が発生した場合)



構造耐震指標 (I <sub>s</sub> 値)	0.3未満	0.3以上0.6未満	0.6以上
建物の被害状況	倒壊または崩壊する危険性が高い	倒壊または崩壊する危険性がある	倒壊または崩壊する危険性は低い

※ 避難所、災害活動、指揮、情報活動の施設は、構造耐震判定指標 0.75 以上が求められる。

#### <主な課題>

- ・ I<sub>s</sub>値は、小鹿野庁舎で0.31と低い値となっており大地震が発生した場合は倒壊又は崩壊の危険性がある。
- ・ 小鹿野庁舎は、コンクリート強度が不足し、補強に堪えない。
- ・ 小鹿野庁舎は、建物の老朽化により、外壁がひび割れし、コンクリート片の落下が見られる。
- ・ 設備の老朽化が著しい。
- ・ ユニバーサルデザインに対応していない。

### 3 他の計画との整合性

公共施設の管理は、第1次小鹿野町総合振興計画に重要な事業として位置づけられているほか、建築物の耐震改修の促進に関する法律に基づく小鹿野町建築物耐震改修促進計画においても、早期に対策を講じることが記載されています。

#### (1) 小鹿野町総合振興計画（後期基本計画）

第5章第2節（1）効率的な行政機構の改革⑦公共施設のアセットマネジメントの推進「施設の老朽化や使用状況等を一元的に調査し、必要に応じて修繕や耐震化を行うとともに、施設の統廃合や余剰施設の有効活用を推進」

#### (2) 小鹿野町建築物耐震改修促進計画

平成27年度までに、町有特定建築物の耐震対策を完了させることを目指しています。小鹿野庁舎は、「災害対策本部が設置される建築物」として、位置づけられています。

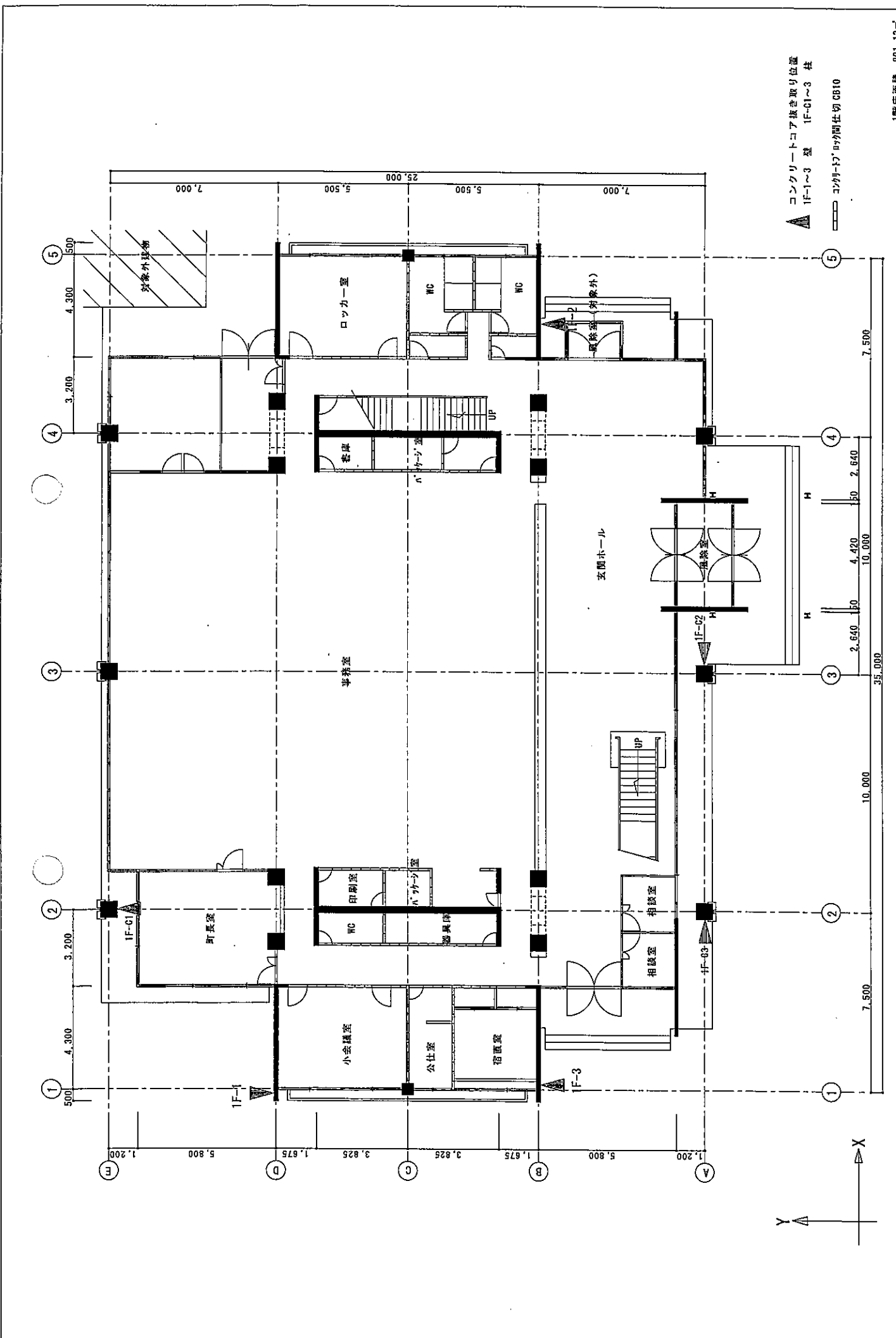
## 小鹿野庁舎 耐震診断概要

耐震診断概要

(診断概要-1)

建物概要	(1)建物名称	小鹿野町庁舎											
	(2)所在地	小鹿野町小鹿野89							(3)用途 庁舎				
	(4)構造・階数	鉄筋コンクリート造 2階					塔屋 1階						
	(5)建設年	昭和 41 年				西暦 1966 年							
	(6)面積	建築面積 801.12 m <sup>2</sup>				延床面積 1435.57 m <sup>2</sup>							
	(7)階高	1階 4.00m			基準階 3.70m			軒高 8.3m					
	(8)桁行長さ×梁間長さ	35.0m×25.0m					スパン数 4×4スパン						
	基準スパン	10.0m×7.0m											
	(9)地盤	岩盤(ボーリングデータ無し)											
	(10)液状化等	可能性は低い(埼玉県ハザードマップ添付)											
	(11)基礎	直接独立基礎											
現地調査結果	(1)コンクリート	設計基準強度 $F_c = 20.6 \text{ N/mm}^2$ 210 (kgf/cm <sup>2</sup> )											
		圧縮試験平均強度 N/mm <sup>2</sup>			標準偏差 N/mm <sup>2</sup>			診断採用強度 N/mm <sup>2</sup>					
	2階	$\sigma_B = 13.47$			4.1			$\sigma_{BD} = 11.4$					
	1階	$\sigma_B = 17.1$			3.5			$\sigma_{BD} = 15.3$					
	(2)鉄筋	主筋種別 SD295 診断用降伏点強度 $\sigma_y = 343 \text{ N/mm}^2$ 帯筋種別 SR235 診断用降伏点強度 $\sigma_y = 294 \text{ N/mm}^2$ 帯筋径 9φ 帯筋間隔 250 mm											
	(3)鉄骨	診断採用降伏点強度 $\sigma_y = 235 \text{ N/mm}^2$ SS400 SSC400											
(4)中性化深さ	筒元平均 54.4 mm 最大値 97.9 mm 筒先平均 31.0 mm 最大値 56.0 mm												
準拠基準	既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準・同解説 (2001) 日本建築防災協会 促進法のための既存鉄骨造建築物の耐震診断・耐震改修同解説 (2011) 日本建築防災協会												
構造耐震判定指標	$I_{e0} = E_s \cdot Z \cdot G \cdot U = 0.75$					$C_{TU} \cdot S_D \geq 0.375$							
耐震診断結果表	第2次診断 又は 平面フレーム応力解析によるヒンジ追跡法												
	X方向 (A-B D-Eは平面フレーム応力解析結果 他は第2次診断)						Y方向 (第2次診断)						
	ゾーン 階	Fu	E <sub>0</sub>	S <sub>D</sub>	T	I <sub>s</sub>	C <sub>TU</sub> ・S <sub>D</sub>	Fu	E <sub>0</sub>	S <sub>D</sub>	T	I <sub>s</sub>	C <sub>TU</sub> ・S <sub>D</sub>
PH	1.00	0.34	1.00	0.937	0.31*	0.34*	1.00	2.19	1.00	0.937	2.05*	2.19*	
A-Bゾーン2階	1.00	1.08	0.90	0.937	0.91	0.97	} 平面フレーム応力解析結果						
A-Bゾーン1階	1.00	1.25	0.72	0.937	0.85	0.90							
D-Eゾーン2階	1.00	1.07	0.90	0.937	0.90	0.96							
D-Eゾーン1階	1.00	1.19	0.72	0.937	0.81	0.86							
全体 2階	1.00	1.27	0.90	0.937	1.07	1.14	1.20	0.55	0.90	0.937	0.47	0.41	
全体 1階	0.80	0.49	0.72	0.937	0.33	0.44	1.00	0.46	0.90	0.937	0.39	0.42	
Fuの定義:I <sub>s</sub> を決定した層のF値 赤字:各階、各方向の最小値 青色網掛けは参考値 * PHは剛床仮定が成立したのとして小屋梁を受けている独立柱・側壁・塔屋全体で第2次診断結果を行っている													
電算ソフト	耐震二次診断Fujiko ver24.10 平面フレーム応力解析 FAP-3												

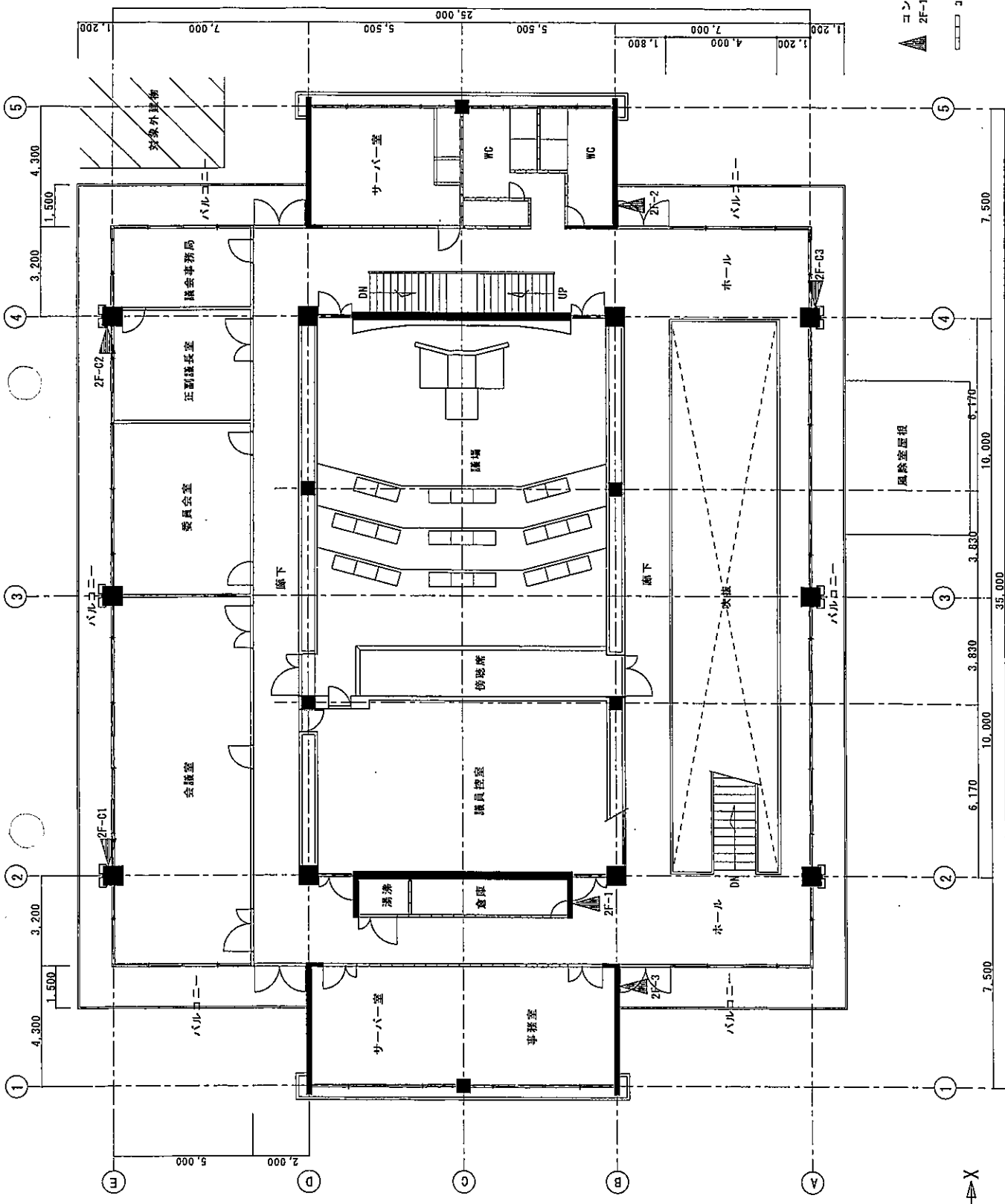
所見	X方向は平面フレーム応力解析結果を採用値とし、A-Bゾーン、D-Eゾーンにゾーニングしている。(第2次診断は参考値)Y方向とPHは第2次診断結果の全体系を採用値としている。
	<X方向>
	靱性抵抗型の破壊形式を示している。
	1～2階は平面フレーム応力解析によるヒンジ追跡法により耐震性を検討した結果、小鹿野町より示された耐震判定指標値を満足していることを確認した。塔屋は満足していない。下階壁抜け柱は無い。
	<Y方向>
	靱性抵抗型の破壊形式を示している。極脆性部材、第2種構造要素は無い。
	鉛直部材が少なく強度不足により、1～2階で小鹿野町より示された耐震判定指標値を満足していない。
	下階壁抜け柱は無い。
	<その他>
	コンクリート強度試験の結果、1回目平均強度が低かったため(2階で10.3)、2回目を柱から採取した。6本の平均強度は2階で13.47となった。平均13.5、設計基準強度 $\times 3/4 = 15.45$ を満たしていない。中性化の進行も著しく、鉄筋のかぶり厚さを大きく超えている。(P57～58、P65参照)
	屋上に設置されている水槽のアンカーボルトが露出していないため、確認が不可能である。
	各階に散在するコンクリートブロック頂部の鉄筋がアンカーされていない。大地震時に転倒・落下の恐れがある。
	片持部材(2GA突)は上下動を考慮した応力に対して、耐力が不足している。
	外部見え掛かり部の劣化が著しい。一部かぶり厚不足と思われる鉄筋の露出、コンクリートの剥離がある。
	サッシュ取り付け上部に劣化により、詰めモルタルが落下しかけている部位がある。(P64-8参照)
	2階の議場上部は鉄骨造の置屋根となっている。水平ブレースが一部(周囲)以外は取り付けしていないため鉄骨部置き屋根となっている部分の荷重伝達は不可能である。(剛床仮定が成立したもとして小屋梁を受けている独立柱・側壁・塔屋全体で第2次診断結果を行っている)
	鉄骨トラスの下弦材のリベットに施工不良部位がある。
	正面玄関の風除室の鉄骨部分はA通り2階梁にアンカーされている。また、4本の鉄骨柱と鉄骨梁はラーメン構造となっていない。先端部はアンカー一部への荷重伝達が不可能であるため大地震時に倒壊の恐れがある。
	(参考 屋上に地震計が設置されている。2011年3月11日の最大震度は4)
	※以上、 $I_s$ 値が低いこと、低強度コンクリートであること(平均強度13.5以下かつ $F_c$ の $3/4$ 以下)中性化が進行していること、建物全体の劣化も著しいことから本建物は改築も視野に入れた検討を進めることが望ましい。



1階床面積 801.12㎡

▲ コンクリートコア抜き取り位置  
 1F-C1 型 1F-C1~3 柱  
 □ □ □ コツリ-17' 10時間仕切 CB10

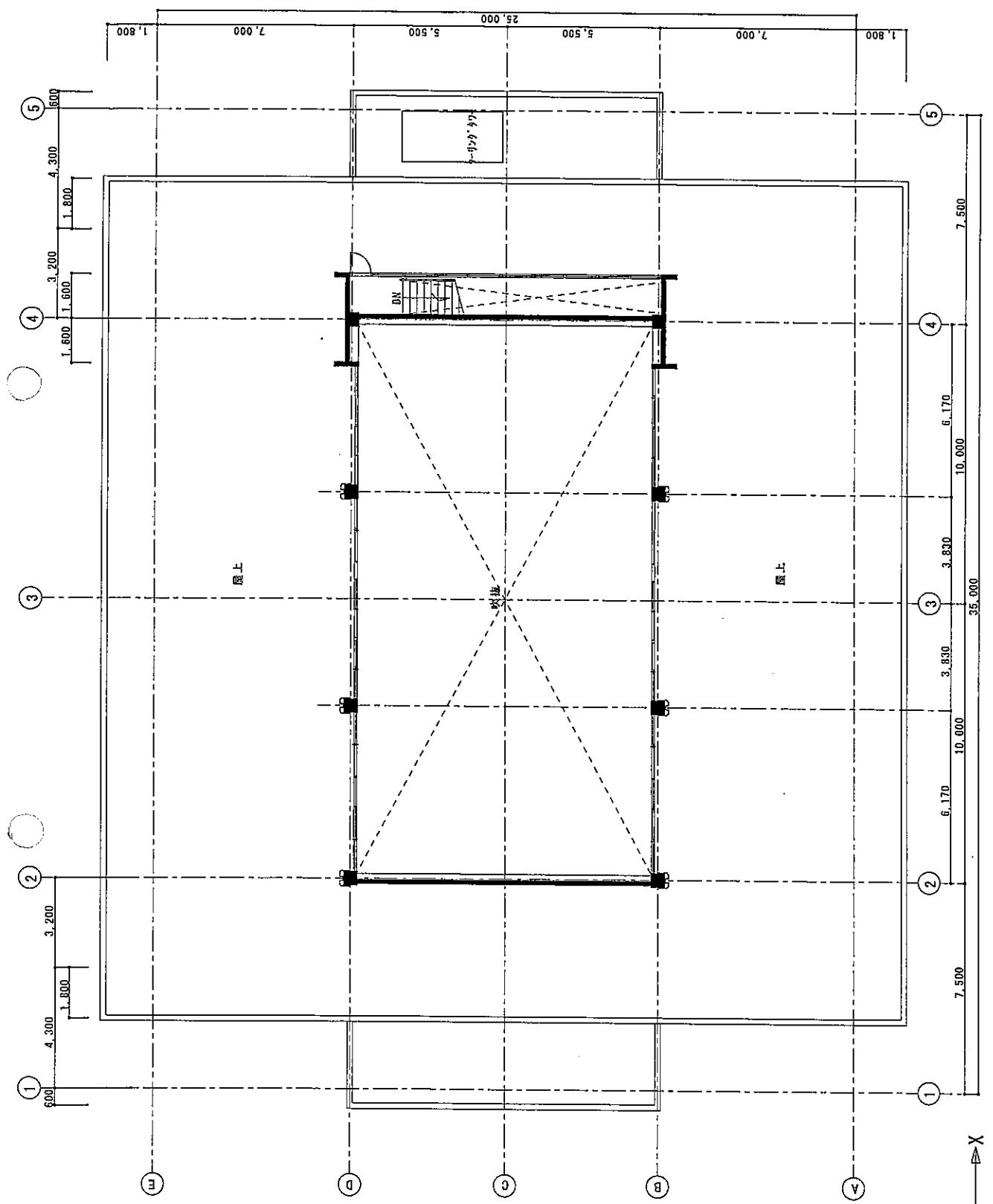
小原野庁舎建設二次設計部業務	1階平面図	縮尺 S=1/100	製 R	株式会社 丸岡設計		
				〒180-0001 東京都文京区 31441号 丸岡一	所長 生 岩 井 昌 夫	主任 田 付



コンクリートコア抜き取り位置  
2F-1~3 製 2F-C1~3 柱  
□ □ □ 300mm×300mm防火仕切 6B10

2階床面積 739.56㎡

小原野行舎前線二次診断調査業務			2階平面図		縮尺 S=1/100		株式会社丸岡設計 一級建築士 事務所 31441号 丸岡 氏			所長 主任 設計 日付	
-----------------	--	--	-------	--	------------	--	-----------------------------------	--	--	-------------	--



小庭野行舎 附設二次診療室業務	区 分	名 称	R 階平面図	縮 尺	株式会社 丸岡設計		冊 数	S-1/100
					一級建築士 登録第 31441 号 丸 岡 只 一			
						冊 数	冊 数	冊 数

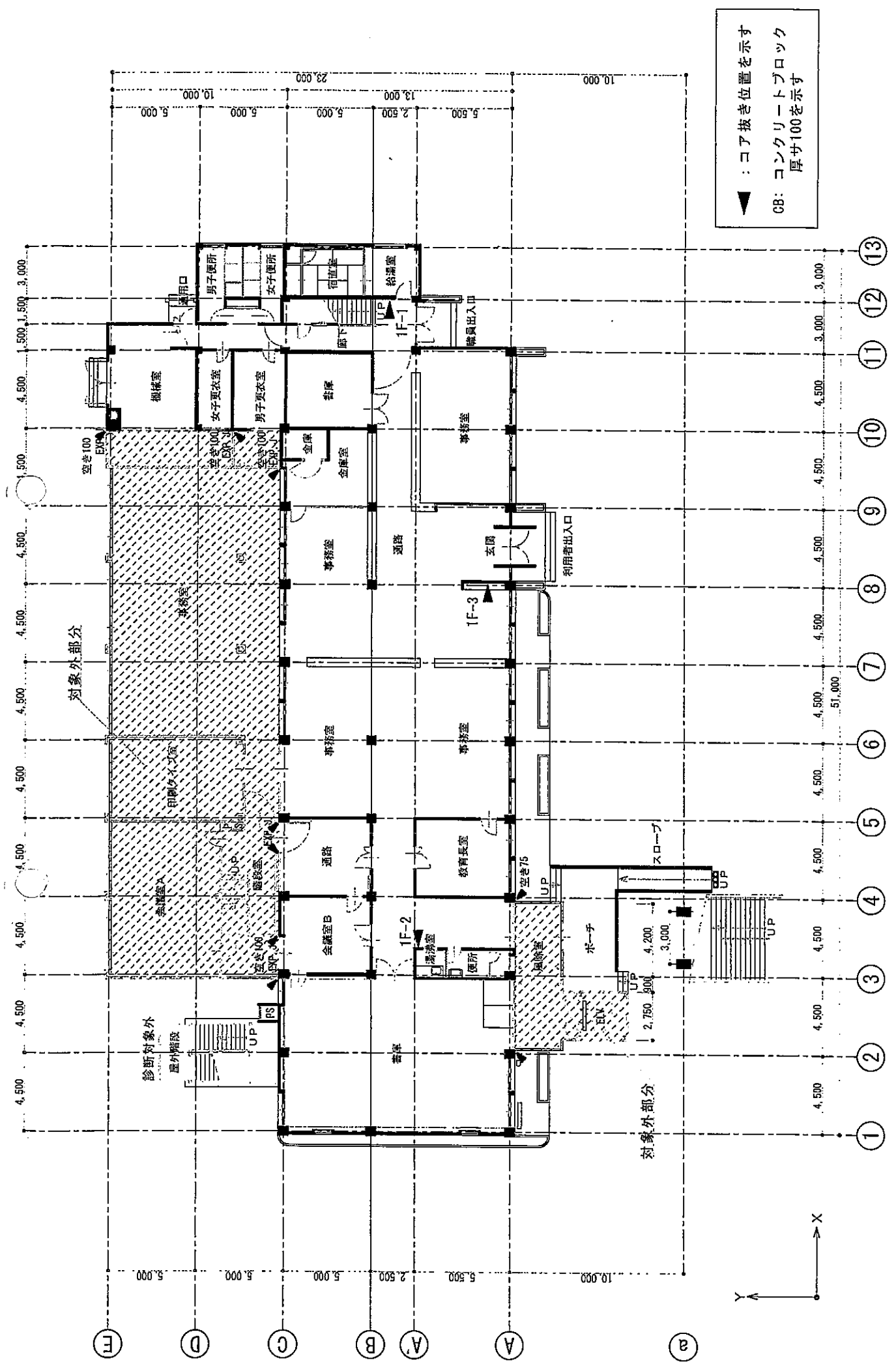
## 両神庁舎 耐震診断概要



耐震診断概要

(診断概要—1)

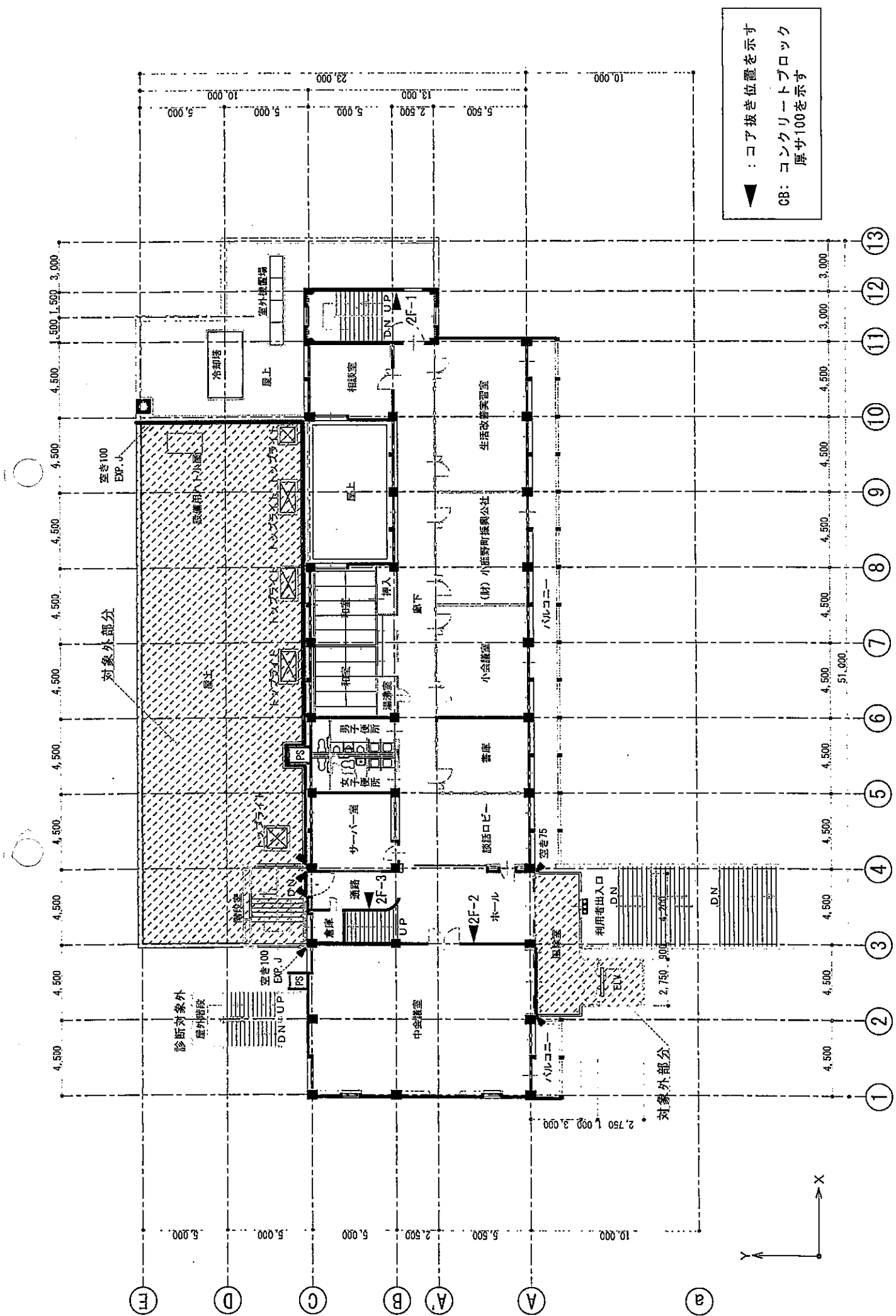
建物概要	(1)建物名称	小鹿野町役場 両神庁舎										
	(2)所在地	秩父郡小鹿野町両神簿 地内							(3)用途 庁舎			
	(4)構造・階数	鉄筋コンクリート造 地上3階建て、塔屋 なし										
	(5)建設年	昭和48年 西暦 1973年										
	(6)面積	建築面積 788.95 m <sup>2</sup> 延床面積 2,098.14 m <sup>2</sup> (内診断部分:1648.5m <sup>2</sup> )										
	(7)階高	1階 4.00m			基準階 4.00 m			軒高 11.25 m				
	(8)折行長さ×梁間長	51.00m×23.00							スパン数 X方向:12 Y方向:4			
		基準スパン 4.50m×8.00m										
	(9)地盤	支持層 礫層										
	(10)液状化等	対象外の地域……液状化危険度マップより										
	(11)基礎	直接基礎 :独立基礎 設計地耐力 200KN/m <sup>2</sup> (推定)										
現地調査結果	(1)コンクリート	設計基準強度 $F_c = 17.6 \text{ N/mm}^2$ (推定)										
			圧縮試験平均強度 $\text{N/mm}^2$			標準偏差 $\text{N/mm}^2$		診断採用強度 $\text{N/mm}^2$				
		3階	$\sigma_B = 30.4$			5.71		$\sigma_{BD} = 22.0$				
		2階	$\sigma_B = 26.1$			6.30		$\sigma_{BD} = 22.0$				
		1階	$\sigma_B = 26.2$			4.01		$\sigma_{BD} = 22.0$				
(2)鉄筋	主筋 SD295(推定) 降伏点強度 $\sigma_y = 343 \text{ N/mm}^2$ 帯筋 SR235(推定) 降伏点強度 $\sigma_y = 294 \text{ N/mm}^2$ 帯筋径 9Φ、13Φ 帯筋間隔 100 mm											
(3)鉄骨	診断採用降伏点強度 $\sigma_y = 258 \text{ N/mm}^2$											
(4)中性化深さ	筒元平均 7.2 mm 最大値 23.5 筒先平均 15.5 mm 最大値 42.0											
準拠基準	既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準・同解説(2001年版) (財)日本建築防災協会											
構造耐震判定指標	$I_{s0} = E_s \cdot Z \cdot G \cdot U = 0.75$						$C_{TU} S_D = 0.375$					
耐震診断結果表	第2次診断											
		長辺方向 (X)					短辺方向 (Y)					
階	(Fu)	$E_0$	$S_D$	T	$I_s$	$C_{TU} S_D$	(Fu)	$E_0$	$S_D$	T	$I_s$	$C_{TU} S_D$
3階階段室	1.00	1.92	1.00	0.960	1.84	1.92	1.00	7.37	1.00	0.960	7.08	7.37
3	1.00	0.92	0.975	0.960	0.87	0.90	1.00	1.59	0.975	0.960	1.49	1.56
2	1.00	0.71	0.877	0.960	0.60	0.62	1.00	1.58	0.975	0.960	1.49	1.55
1	1.00	0.90	0.975	0.960	*0.85	0.88	1.00	1.16	0.975	0.960	1.09	1.13
(Fu) $I_s$ の採用値に対応する最大のFの値 *印は下階壁抜けによる第二種構造要素の柱が存在している階を示す。												
電算ソフト	第2次診断 ユニオンシステム(株) Super Build/RC診断2001 Ver.2.33											
所見	診断結果に関する事項											
	・コア抜きによるコンクリート平均圧縮強度は、全て設計基準強度 $17.6\text{N/mm}^2$ を上回っている。											
	・X方向 ・1階に下階壁抜けによる第二種構造要素の柱が2本存在している。 なお、診断結果表は第二種構造要素の柱が存在している値を示している。											
	・2階で耐震判定指標値 $I_{s0} = 0.75$ を下回っているが、 $C_{TU} \cdot S_D = 0.375$ を満足している。 その他の階は耐震判定指標値を満足している。											
	・ラーメン架構が主であるが、階段室部分に耐震壁が存在している。											
	・階段室部分の最上階は本体から独立しているが、単独で耐震判定指標値を満足している。											
	・Y方向 ・ラーメン架構が主であるが、各階に耐震壁が存在している。 ・各階とも耐震判定指標値を満足している。											
	結果: ・X方向の1.2階は補強が必要である。 ・補強時には、下階壁抜けによる第二種構造要素の柱の改善が必要である。											
	・その他 ・煙突は、地震時2Gで検討の結果、耐力が不足している。 ・高架水槽鉄骨架台は、アンカーボルトが不明なこと及びタンクの耐震性も不明なことから 取替えを推奨する。 ・コンクリートブロック頂部は、隙間があり縦鉄筋も定着されてないことから、改修又は 補強を行う事が望ましい。											
	・片持ち梁は、地震時上下動1Gで検討の結果、所要の耐力を満足している。											
	・外部RC階段部分の柱は、鉄筋径などが不明なため主筋: D22、帯筋: 9Φを推定し検討の結果 所要の耐力を満足している。											
	・パラペット部分は、局部震度 $K=1.0$ の地震力に対して許容応力度を満足している。											
	・3階8通りの壁は面外方向で、 $C_0=0.30$ の地震力に対して許容応力度を満足している。											



▲ : コア抜き位置を示す  
 CB: コンクリートブロック  
 厚サ100を示す

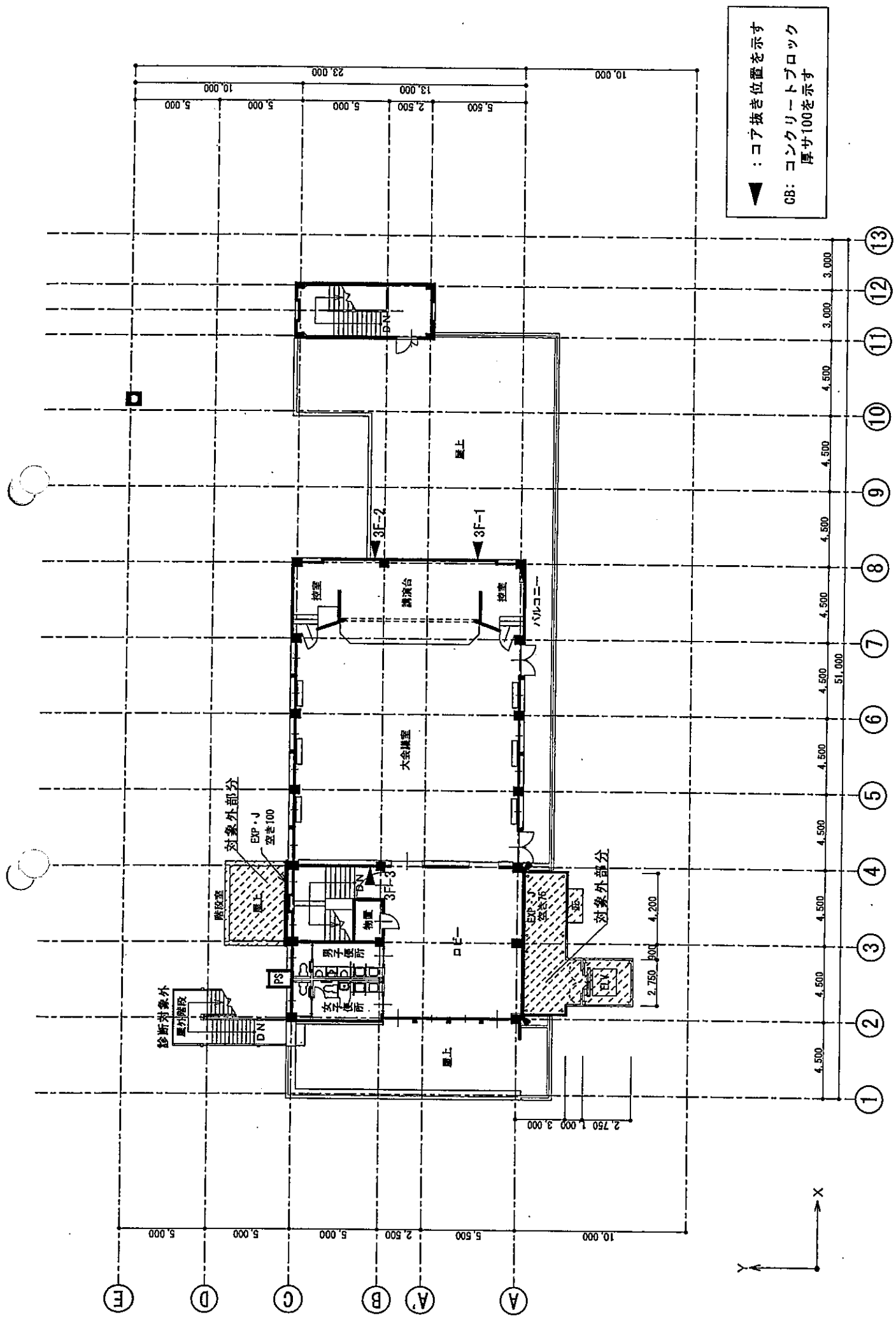
1階平面図 S=1/200

..... 壁面 E X P . J を示す



▼ : コア抜き位置を示す  
 CB: コンクリートブロック  
 厚サ100を示す

--- 床面EXP. Jを示す      ◀--- 壁面EXP. Jを示す



▼ : コア抜き位置を示す  
 CB: コンクリートブロック  
 厚サ100を示す

— 床面EXP. Jを示す  
 ◀ 壁面EXP. Jを示す

3階平面図 S=1/200

## 町の財務状況

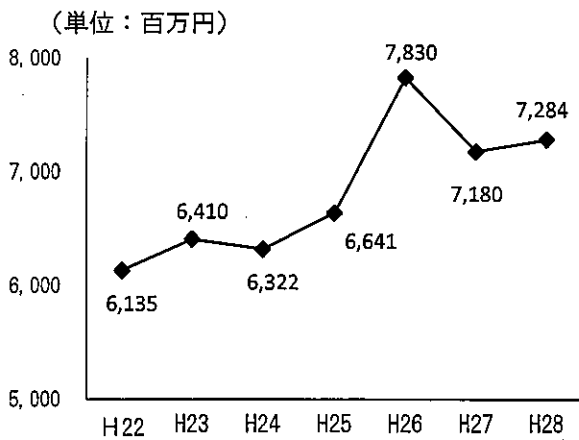
## 2 財政指標

区 分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	判断基準
財政力指数（3カ年平均）	0.35	0.35	0.35	高い方が良い
経常収支比率（%）	79.7	80.3	82.5	低い方が良い
実質公債費比率（%）	12.4	11.5	10.1	低い方が良い
将来負担比率（%）	41.0	32.9	34.3	低い方が良い

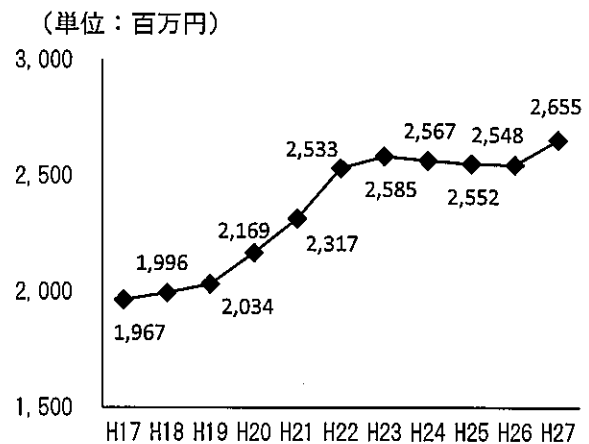
### ※用語解説

財政力指数	標準的に係る経費に対する自主的な収入割合で、指数が高いほど財源に余裕があることとなります。いわゆる交付税不交付団体は、この数値が1.0を超えている団体です。
経常収支比率	財政構造の弾力性を判断する比率で、指数が低いほど弾力性があることとなります。
実質公債費比率	標準的な財政規模に占める元利償還金等（公営企業会計に対する繰出金のうち公債費に当たるものも含まれます。）の割合で、18%を超えると地方債の発行に許可が必要となります。
将来負担比率	一般会計等が将来負担すべき債務（公営企業会計・一部事務組合等・地方公社・第三セクター等の分を含む）が標準財政規模の何倍あるかを示しています。

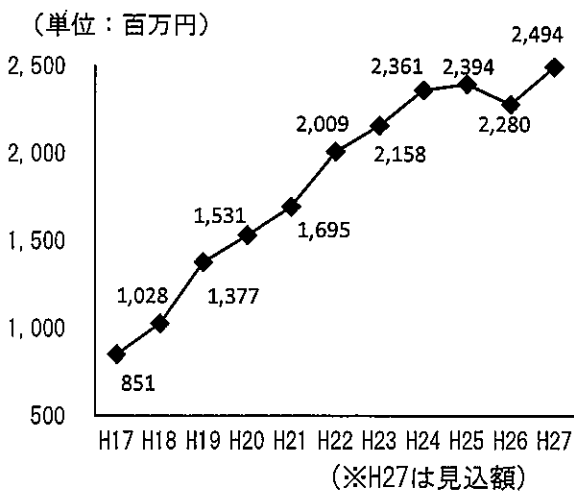
## 3 一般会計当初予算の推移



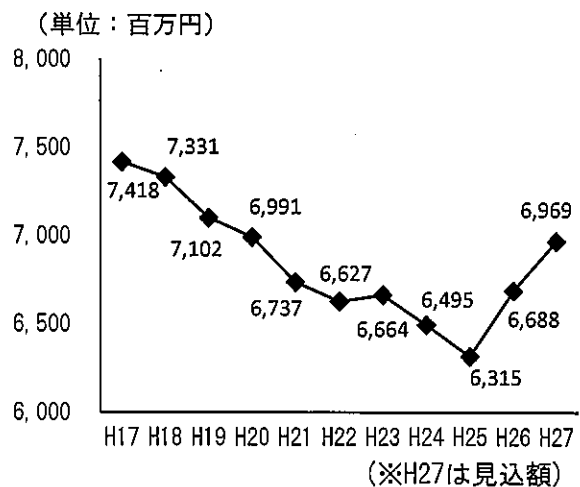
## 4 普通交付税の推移



## 5 基金（貯金）残高の推移



## 6 地方債（借金）残高の推移



## 小鹿野町役場庁舎検討委員会名簿

平成28年12月8日現在

順不同

	職 名	氏 名	備 考
1	小鹿野町区長協議会長	丸山 陽生	委員長
2	小鹿野町区長協議会副会長	佐藤 恭平	下小鹿野地区
3	小鹿野町区長協議会副会長	原口 悟志	小鹿野地区
4	小鹿野町区長協議会副会長	井上 要作	長若地区
5	小鹿野町区長協議会副会長	石田 悦朗	三田川地区
6	小鹿野町区長協議会副会長	山崎 勉	倉尾地区
7	小鹿野町区長協議会副会長	吉田 恭典	両神地区
8	西秩父商工会長	岩崎 宏	
9	小鹿野町農業委員会会長	黒沢 裕幸	
10	小鹿野町体育協会会長	笠原 憲一	副委員長
11	小鹿野文化団体連合会長	柴崎 好一	
12	小鹿野町老人クラブ連合会長	坂本 好司	
13	小鹿野町民生委員・児童委員協議会長	多比良 キヨ子	
14	小鹿野町交通安全母の会会長	町田 考子	
15	小鹿野町身体障害者福社会長	今井 清	
16	サン・レディスおがの会長	隼田 静江	
17	埼玉県営繕工事事務所長	柿島 佳弘	
18	埼玉建築士会副会長	丸岡 庸一郎	秩父支部長
19	公募委員	黒沢 一男	